

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 評価（新編）2016年版（使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-6D_NC_2016(v3.0)）

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	岩谷産業研修施設新築工事	階数	地上8F、地下0F	
建設地	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目	構造	S造	
用途地域	準工業地域	平均居住人員	90人	
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)	
建物用途	学校、ホテル、工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2022年12月15日	
敷地面積	10,070 m ²	作成者	大窪 研二	
建築面積	2,709 m ²	確認日	2022年12月15日	
延床面積	14,034 m ²	確認者	古川 和彦	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	138
②建築物の取組み	92
③上記+②以外の	92
④上記+	92

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 CASBEE神戸 の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 4.4	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 4.0
配慮の概要 0	配慮の概要 0・非常用発電機・無停電装置の設置、電源設備の地下設置無し	配慮の概要 ・建物形状や植栽により良好な景観を形成
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたいた

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
岩谷産業研修施設新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.5
Q1 室内環境							0.39		-	3.3
1 音環境						3.8	0.15	3.6	1.00	3.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						4.6	0.40	4.0	0.40	
1 開口部遮音性能		【ホテル・学校】T-2以上 【ホテル】T-2以上				5.0	0.69	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		【学校】Dr=40				4.0	0.16	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		【学校】Lr=30 【ホテル】Dr=45				5.0	0.07	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		【ホテル】Dr=50				3.0	0.07	4.0	0.20	
1.3 吸音		吸音材採用面数 【学校】:3面 宿泊部【ホテル】:2面				4.0	0.20	4.0	0.20	
2 温熱環境						2.4	0.35	1.5	1.00	2.2
2.1 室温制御						2.8	0.50	2.1	0.50	
1 室温		断熱性能に配慮がなされている				2.0	0.46	3.0	0.57	
2 外皮性能						4.0	0.31	1.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.24	-	-	
2.2 湿度制御						2.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						2.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境						3.7	0.25	3.6	1.00	3.7
3.1 昼光利用						3.8	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		宿泊部【ホテル】U=4.5%				3.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備		共用部【ホテル・学校】トップライトを採用				5.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						4.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御		宿泊部【ホテル】カーテン、庇により制御				4.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		【学校】1作業単位で制御可能				4.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						4.0	0.25	4.2	1.00	4.1
4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		全面的に告示対象外又はF☆☆☆☆の材料を採用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.8	0.30	4.6	0.38	
1 換気量		共用部【ホ・学】換気量:30m ³ /h・人、宿泊部【ホ】換気量:40m ³ /h・人				4.0	0.42	5.0	0.33	
2 自然換気性能		宿泊部【ホテル】自然換気窓有り、開口比率11%				3.0	0.17	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		共用部【ホ・学】、宿泊部【ホ】共に各種排気口と6m以上離している				4.0	0.42	4.0	0.33	
4.3 運用管理						4.7	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		空気質を適正に維持する管理マニュアルを整備				4.0	0.25	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	0.75	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.5
1 機能性						3.9	0.40	3.8	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性		宿泊部【ホテル】CAT6e				-	-	3.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応						-	-	5.0	0.50	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観		【学校】天井高5.5m				5.0	0.24	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画		共用部【ホ・学】、宿泊部【ホ】共にインテリアパース等による検証実施				5.0	0.76	4.0	0.50	
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い材料を使用等				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		フロア毎に清掃用流しを設置等				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.3	0.30	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット 壁:EP、ビニルクロス 天井:EP、ビニルクロス				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房系統にガルバリウム鋼板を採用				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種の2種以上にC以上を使用				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						4.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		吊配管を採用等				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		災害時に一時貯蓄可能な汚水槽の計画等				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電機・無停電装置の設置等				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		重要機器:耐震クラスA				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		精密機器の地下空間への設置回避等				5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.2	0.30	2.7	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.15	2.4	0.50	
1	階高のゆとり	【学校】階高3.95m以上	5.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	共用部・壁長さ比率0.17	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.15	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.70	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			植栽による良好な景観を形成	4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			建物外部広場の防犯性への配慮	5.0	0.50	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI _m]=0.78	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m] = 0.85	2.7	0.50	-	2.7
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング	中央監視盤による電気量の計測	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			主要水栓の過半以上に省水型機器を採用	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.6	0.60	-	-	4.6
2.1 材料使用量の削減			BCP鋼材、ハイベースNEO、新型ウイングビーム工法の採用等	5.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			柱、大梁等に製材を採用	5.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			フロアリウムマール、ダイロートン、エアロンFR-FO	5.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			持続可能な森林から産出された木材を採用	5.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			再利用できるユニット部材を用いている。(OAフロア)	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない製品を2種採用	4.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、1<GWP<50の断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			LCCO2排出率削減に配慮	3.4	0.33	-	3.4
2 地域環境への配慮				3.3	0.33	-	3.3
2.1 大気汚染防止			排出基準より大幅(90%以下)に抑えられている	4.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減	任意の雨水流出抑制対策を実施	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	管理車両や荷捌き用車両の駐車スペースの確保等	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半を満足	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	